

## ポスト音声翻訳時代に向けたバリアフリー社会実装

### 概要

ATR・NICTの多言語音声翻訳技術に基づくソリューションを起点とし、コミュニケーションを支える技術を通じて、人間らしいバリアフリーな社会をつくる課題に取り組んでいます。実装例には、聴覚障害者への支援、窓口や放送案内向けの多言語音声翻訳・自然言語処理システム、産業分野での音響解析と機械学習による設計支援ツールの開発が挙げられます。

### 特徴

- 【音声言語・音響工学】 多言語音声翻訳技術とそのコミュニケーションを支える技術。さらに、エリア收音、音声・音響解析、自然言語処理、および音場制御技術などに力を入れ、言語・音・空間の接点がある分野において貢献。
- 【実装例】 教育現場での聴覚障害者・難聴者の受講及び、生徒間のコミュニケーションを支援するアプリを提供、また、自治体や鉄道などの窓口や、放送案内向けの多言語音声翻訳・自然言語処理システムの開発と運用。
- 【バリアフリー】 ① 言語バリア：装置の多言語対応 ② 身体バリア：コミュニケーション支援アプリ「こえとら」「SpeechCanvas」 ③ 産業バリア：音響解析と機械学習による異音検出などの設計支援。

### 今後の展開

- 人間らしいバリアフリー社会をつくるため、多言語音声翻訳システムとその周辺技術を整え、社会実装を普及します。また、産業分野においては音響解析と機械学習による設計支援ツールの開発を加速し、生産性向上に貢献します。

### テーマ「Society5.0への貢献～サイバーとフィジカルの融合に向けて～」との関連

- 労働力の減少に伴い、生産活動を維持するためにはサイバーによる生産性の向上が必要です。フィジカルとのインターフェースである「音声言語」および「音響工学」の技術を融合し、人間らしいバリアフリー社会をつくります。

